2024
輝く県民活躍大賞
受賞活動の紹介

「輝く県民活躍大賞」は、

中高生、若者、NPOなどによる社会貢献活動や地域活性化のための取組を顕彰しています。

2024輝く県民活躍大賞には、
ジュニア・ユース部門で3団体、
若者部門で3団体、
一般社会貢献部門で2団体1個人
の活動が受賞されました。

受賞された皆様は、それぞれの分野で先駆的な活動を展開し、地域の活性化に大きく貢献したまさに輝く県民の代表者です。

今回受賞した9つの活動をご紹介します。

ジュニア・ユース部門

1 地域開発チームWATS
動画等による中心商店街の活性化

2 南陽高校市役所部
高校生によるまちづくりボランティア活動

3 ボランティアサークル「nicoこえ」
小児がん支援レモネードスタンド活動を軸とした
ボランティア活動・地域貢献活動

若者部門

4 川西町こども食堂なかよしキッチン
住民主体の子どもの居場所づくり

5 東北公益文科大学
学生団体Liga　食品ロス削減チーム
食品ロス削減活動

6 山形大学
SCITAセンター学生スタッフ
やまがた未来科学プロジェクト

一般社会貢献部門

7 飯豊町中津川の森人会
「森林業」による地元の魅力発信と関係人口・
交流人口の創出

8 一般社団法人徳良湖ヨット倶楽部
Sailing for everyone　ヨットで町おこし

9 登坂　尚高 様
寺フェス in 山形県朝日町若宮寺、のぼり花火大会

2024
輝く県民活躍大賞
ジュニア・ユース部門

動画等による中心商店街の活性化
地域開発チーム WATS

・・・ 団 体 概 要 ・・・

代表者
代表　富澤 洋一
所在地
新庄市
主な活動分野
まちづくりの推進
設立年月
令和元年12月1日
会員数
14人（うち高校生9人）

特産品を使用したスイーツ開発

地域での動画製作

受賞した活動について

Q. どのような活動ですか。

SNS への動画投稿を中心に地域の方々と協働で様々な活動をしています。

映画・音楽製作では地域の風景を記録に残したり、特産品を使用したスイーツを開発したり、その世代毎にテーマを決めながら、高校生がやりたいことを自由に活動しています。

Q. いつから始めた活動ですか。活動を始めたきっかけや理由は何ですか。

2019 年から活動しています。きっかけは地域の方が製作した「映画ゾンビ商店街」に参加したことです。

高校生の私達でも地域を元気に出来る！と感じ、最上地域の高校生が高校の枠にとらわれず、自主的に集まり活動したことが始まりでした。

Q. 活動をする中で、大切にしていることは何ですか。

地域住民の方と協力して活動する事を大切にしています。

これまで関わる事の無かった地域の方と共に活動することで新しい発見や視点を得ることができました。今まで気がつかなかった地域の魅力を WATS の活動で発見することができました。

Q. 活動の中からどのような気付きや発見がありましたか。

新庄にある場所、人、モノを通して地域の思わぬ歴史にふれたり、ふるさとの温かさを活動したりする事で身をもって感じています。

特に、地域の為にボランティアで活動している人たちと接し、私たちもがんばらないと、と決意を新たにする事もありました。

Q. 活動をする中で困ったことはありますか。そのときどのように対応しましたか。

私たちの活動の多くが地域の方々との協働です。その為、地域の方々に活動を伝え、協力を得る事に苦労したことがありました。

できる限り、自分たちで歩き、直接地域の方にお願いをするようにしています。

Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。

WATS の活動を多くの人に知ってもらえるよう SNS などの投稿や高校生へのメンバー募集の案内を自分たちで製作したりしています。

また、ジモト大学などイベントにも積極的に参加し、直接高校生にも活動に参加してもらい、興味を持ってもらえるようにしています。

地域での活動風景

インバウンド
動画の製作

その他の活動について

Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。

今年は新庄市より、新庄開府400年記念事業アンバサダーに認定されています。アンバサダーとして、開府400 年は当然のこと、新庄の魅力発見をできる活動を始めています。

その１つが新庄開府400年記念映画製作です。地域の方々と新庄の歴史を絡めた映画製作に取り組んでいます。本年 7 月に公開予定です。たくさんの方に見てもらいたいです！

今後について

Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。

今年は活動開始から 6 年目になります。これからも最上地域の高校生がふるさとを知るきっかけであったり、地域住民との交流であったり、途切れることなく活動を継続していきたいと思っています。

高校生がやりたいことを実現できる！それが地域に貢献できる活動につながるよう大人達も見守っていきたいと思います。

（代表富澤洋一）

2024
輝く県民活躍大賞
ジュニア・ユース部門

高校生による
まちづくりボランティア活動

南陽高校市役所部

カフェ経営者に作り方を学びスイーツ開発

・・・ 団 体 概 要 ・・・

代表者
部長　梅津　大和

所在地
南陽市

主な活動分野
高校生によるまちづくり
ボランティア活動

設立年月
令和2年12月18日

会員数
13人（全員高校生）

受賞した活動について

Q. どのような活動ですか。

南陽高校生が考えるまちづくりを地域の方々のサポートを受けながら実践しています。Instagram を活用した魅力発信、地域資源に新たな付加価値を付け更なる PR を目指すプロジェクトに取り組んでいます。

これまで、ジェラート、スムージー、スイーツの開発や市内のカフェを掲載したマップの制作、フードロスを削減するための活動に取り組んできました。

廃棄食材を活用した
米ぬかスイーツ

Q. いつから始めた活動ですか。活動を始めたきっかけや理由は何ですか。

令和２年12月に南陽高校と南陽市役所が連携して立ち上げました。探究学習授業「総合的な探究の時間」で地域の方々へインタビューをするなど、地域との関わりを通して、私たち高校生の視点で地域の魅力や課題を考える取り組みがきっかけでした。

南陽市長を招いた発表会で、「自分たちが企画提案したまちづくりや情報発信を実際にやってみたい」と言ったところ、市長から「南陽市を PR するための部活動をつくろう」と提案してくださり実現しました。

Q. 活動をする中で、大切にしていることは何ですか。

農家さんや企業の方へのインタビューを通して、生産物に込めた想いや工夫を直接お聞きすることで、その背景にあるストーリーや価値をより深く理解し、これを正確に広く伝えることを大切にしています。

また、生産者と消費者をつなぐ架け橋となれるよう、消費者に対して分かりやすいポスターやポップを作成するなど、明瞭性と信頼性の高い情報発信を心がけています。

開発した
スイーツ

りんご収穫体験、
農家さんへの
インタビュー

南陽市役所
南陽高校
応援部員との交流

カフェマップ制作
・取材活動

Q. 活動の中からどのような気付きや発見がありましたか。

お菓子を作って販売するにも、入浴剤を開発するにも、人物要件や設備要件が厳しく様々な許可や届け出が必要だということを知りました。ものづくりの難しさを学習すると同時に、その裏にある法規制や品質管理の重要性を実感しました。

Q. 活動をする中で困ったことはありますか。そのときどのように対応しましたか。

私たちの知識では知らないことが多すぎて、どの資源を活用したらいいとか、どの人に聞いたらいいとかが分からないときがあります。そんなときは、南陽市役所南陽高校応援部（全市職員が部員）の皆さんに相談して、分野ごと専門性の高いアドバイスをいただいたり、地域の方につなぐ手助けをしていただいたりしています。

Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。

これまで、「新聞やテレビを見て興味が湧いた」、「学校パンフレットを見て自分も活動したいと思った」、「Instagram を見て楽しそうだと思った」などの理由で入部する部員が多かったので、引き続き広報活動を頑張っていきます。

特に「男子部員」絶賛募集中です！

その他の活動について

Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。

私たちと同じようにまちづくり活動を行っている高校生組織が一堂に会する「高校生サミット」に参加し交流を深めたり、東京大学先端技術研究センター主催のマルシェに出展し、特産物の販売及びPR活動を行ったりしています。

また、南陽警察署交通課からお声がけいただき「自転車乗車時のヘルメット着用率を上げるには」というテーマでワークショップと実態調査を実施しました。今後も地域の方々と連携しながら幅広く活動していきたいです！

今後について

Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。

現在は、南陽市の魅力がたっぷり詰まったおにぎりの開発と旅行商品の造成に取り組んでいます。特に、旅行商品の造成では、主に県外の方をターゲットにしています。

これまでの市民向け活動から、視野を広げ南陽市に人を呼び込みたいという想いからの新たな挑戦です。おにぎり開発も含め、魅力を直接肌で感じ、楽しんでもらえるように部員全員で一生懸命活動していきます。

2024
輝く県民活躍大賞
ジュニア・ユース部門

小児がん支援レモネードスタンド活動を軸としたボランティア活動・地域貢献活動

ボランティアサークル　nico こえ

・・・ 団 体 概 要 ・・・

代表者
代表　山口　玲美
所在地
天童市
主な活動分野
ボランティア活動・
地域貢献活動
設立年月
令和3年4月1日
会員数
50人（うち中高生42人）

イベントでのレモネードスタンド活動

受賞した活動について

Q. どのような活動ですか。

小児がん支援のレモネードスタンドを、私たちだけでなく県内で多くのみなさんに開催していただき、その売り上げの一部を山形県内の小児がんと闘う子ども達に寄付させていただく活動です。

昨年は約 103 万円を山形大学医学部小児科学講座に寄付させていただきました。

Q. いつから始めた活動ですか。活動を始めたきっかけや理由は何ですか。

レモネードスタンドは、小児がんを経験したメンバーの提案により 2022 年の 7 月から活動を開始し、以後サークルの活動の軸となりました。

小児がん支援について学び、看板などをみんなで作成するなど準備を重ね、2022 年の 10 月に 1 回目のレモネードスタンドを実施しました。

Q. 活動をする中で、大切にしていることは何ですか。

レモネードを販売させていただくにあたって、あえて何円寄付するという”目標”金額は設定せず、小児がんについて知ってもらいたいということを１番に考えて活動しています。

また、中高生中心のメンバーが笑顔で元気に活動することも大切にしています。

イベントでの
レモネード
スタンド活動

小児がんを経験した
メンバーの講演

Q. 活動の中からどのような気付きや発見がありましたか。

小児がんと闘う子どもたちやその家族の方々が笑顔になれるように活動を行っていますが、私たちに対しての激励をいただくことも多いです。

誰かのことを思って活動することで人との繋がりや思いが広がると同時に、笑顔もどんどん広がっていくことを感じています。

Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。

メンバーが通う学校で声掛けを行ったり、友達を誘ったりしていました。

最近では、私たちの活動を知ってくれて参加を決めてくれた子や Instagram を通して参加を希望してくれた仲間もいます。

Q. 活動をする中で困ったことはありますか。そのときどのように対応しましたか。

大変ありがたい話なのですが、レモネードスタンドをイベントで実施してほしいという依頼を非常に多くいただくようになりました。

山形には私たちのような YY ボランティアサークルが 48 ありますので、各サークルに協力していただいています。また、学校や地域、企業等のみなさんでレモネードスタンドを実施していただき、本当に多くの皆様にご協力いただいています。

商店街イベントボランティア

地域食堂ボランティア

手話イベントボランティア

その他の活動について

Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。

商店街とコラボしての地域づくり活動、モンテディオ山形の SDGs ブースボランティア、福祉ボランティア、災害ボランティアなど、メンバーのやりたいことと社会のニーズとをマッチングさせて幅広く活動しています。

私たち nico こえは中学生から社会人まで、年齢や学年などの枠を超えて仲良く楽しみながら活動しています。個性のある仲間が勢ぞろいです！初めて会ったメンバーであってもすぐ仲良くなり、nico こえはみんなの「居場所」のような存在になっています。

今後について

Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。

今まで行ってきたことを継続しながらも、メンバーが「したいこと」をより多く活動の中に取り入れていきます。

また、nico こえは中高生ボランティアサークルですが、高校を卒業したメンバーが継続して活動できる場として青年団体「nico ぷら Ad」が結成されています。先輩である nico ぷら Ad メンバーが nico こえのファシリテーションを行いながら“自走”して活動していくチームになります！

2024
輝く県民活躍大賞
若 者 部 門

住民主体の子どもの居場所づくり
川西町こども食堂なかよしキッチン

こども食堂 調理風景

・・・ 団 体 概 要 ・・・

代表者
代表 佐藤 千恵美
所在地
川西町
主な活動分野
子どもの居場所づくり
（子ども食堂）
設立年月
令和元年6月1日
会員数
スタッフ3人
利用会員140人

受賞した活動について

Q. どのような活動ですか。

私たちは子育て真っ最中の母親3人が立ち上げた手作りの子ども食堂で、仕事が休みの日にボランティアで活動しています。

子どもの居場所づくりと保護者同士の交流の場をつくることを目的とし、毎月1回食事会を開催しています。毎回約60名の親子が参加し、賑やかなランチタイムとなっています。

夏まつりやクリスマス会などのイベントには150名の親子が参加します。食事会の他、子供服おゆずり会、放課後の子どもの居場所づくり、大雨災害の被災地支援、防災体験等も実施しています。

こども食堂 食事風景

高校生との関わりも深く、吹奏楽部のコンサートやダンス部の発表、運動部によるボランティア体験など、学生の活躍の場の創出にも繋がっています。

Q. いつから始めた活動ですか。活動を始めたきっかけや理由は何ですか。

2019年に立ち上げ、今年で7年目です。「町内に子どもの遊び場が無い」という地域課題について、行政任せではなく「子育て当事者の自分達で解決できるのではないか」と思ったことがきっかけです。

Q. 活動をする中で、大切にしていることは何ですか。

まずは自分達が楽しむ事！子育て支援や社会貢献という難しいことは考えず、自分達が楽しいと思えることを企画しています。運営側が負担を感じないことが活動を継続させるポイントです。

Q. 活動の中からどのような気付きや発見がありましたか。

保護者から「今は余裕がないけど、いつかは人の役に立てることをしたいです」という嬉しい言葉があり、子ども食堂は支える側・支えられる側の区別なく活動できるということが分かりました。

これは地域共生社会の実現であり、子ども食堂は立派な社会資源だと感じます。

Q. 活動をする中で困ったことはありますか。そのときどのように対応しましたか。

私達スタッフ3人が子育て真っ最中ということもあり、習い事やスポ少などで3人の予定が合わないことが多々あります。そんな時は迷わず家庭優先で、スタッフ不足の時にはボランティアさんに調理以外の部分もお願いしたり、開催前日に事前準備をしています。

Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。

公式LINEやFacebookでの情報発信、店舗や施設でのポスター掲示、町報に活動の様子を掲載してもらうことで、当団体の活動を広く周知するようにしています。また、地域の方を対象とした「子どもの居場所づくり講座」を開催してボランティアを募っています。

子供服おゆずり会

季節の行事

その他の活動について

Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。

これまでは町内の子育て世帯のみを対象として活動してきましたが、新たな企画を準備中です。

当団体を応援してくださっている地域の方々に感謝の気持ちをお伝えするため、子ども達が店員となってお客様をおもてなしする「ありがとうカフェ」を開催します。キッズ店員が受付、接客、調理を担当します。

今後について

Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。

住民の主体的な支え合いを育むことができる地域づくりを目指します。

子どもの居場所から親子の居場所、そして地域の居場所へと繋がっていくように世代間交流ができるイベントを企画していきたいです。

2024
輝く県民活躍大賞
若 者 部 門

食品ロス削減活動

東北公益文科大学 学生団体 Liga 食品ロス削減チーム

フードドライブ

・・・ 団 体 概 要 ・・・

代表者
代表 高木 七美

所在地
酒田市

主な活動分野
フードパントリー・フードドライブによる食品ロス削減活動、幼稚園～高校での食品ロス削減の講座実施による啓発活動、子ども食堂開催

設立年月
令和2年2月1日

会員数
39人

受賞した活動について

Q. どのような活動ですか。

私達は山形県庄内地方を主な活動拠点とし、ご家庭に眠っている食べることが出来るのに食べられていない食品を集める『フードドライブ』や、フードドライブで集めた食品を必要としている人にお渡しする『フードパントリー』を通し、食品ロスを削減するための活動を行っています。

その啓発活動として、幼児施設や小学校に出向き自らが食品ロスをなくす行動ができるように『食育出前授業』を開催しています。

また、集めた食材を活用して『子ども食堂』も開催しています。

Q. いつから始めた活動ですか。活動を始めたきっかけや理由は何ですか。

日本の食品ロスの問題と世界の貧困とのギャップに驚いたことがきっかけで2020年に団体を発足しました。

世界では飢餓で苦しんでいる人がいるのに、日本では一人当たりおにぎり1個分が毎日捨てられています。そういった状況を改善するため、まずは自分たちにできる「身近な食品ロス」を減らすことからはじめたいと思い、活動に取り組んでいます。

Q. 活動をする中で、大切にしていることは何ですか。

私達は、地域の人とのつながりを大切にしています。フードドライブでは酒田市内のイベントにブースを作っていただき参加したり、市民の方から食品をもってきていただいたりしています。フードパントリーでは、子育てイベントやサークルでの配布や、酒田の中心街で一般向けに配布するなど、食品を必要としている人に直接お渡ししています。子ども食堂でも地域のこどもたちが、学区・年代を超えて交流できる場を提供できていると思います。

フードパントリー

食育出前授業

Q. 活動の中からどのような気付きや発見がありましたか。

「食品ロス」は年間約 472 万トン（令和4年度推計値、環境省など発表）あります。そのような状況を打破するため活動していますが、食品ロスについて知らない人がまだまだ多いことに気づきました。私達の活動を通して関心をもってくださったり、協力してくださったりする人が増えました。

Q. 活動をする中で困ったことはありますか。そのときどのように対応しましたか。

活動をする中で困ったことは、モチベーションの差です。その解消のために役割分担をしっかり決めて、多くの人が主体的に活動に参加できるようにしたほか、定期的にミーティングを開催し、メンバー同士のコミュニケーションを増やせるようにしました。活動やミーティングに参加できなかったメンバーにも、写真や記録で報告して参加しやすい空気をつくっています。

Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。

私達は、新年度に1年生が入学するタイミングでサークル加入の声掛けを行っています。フードドライブで集めた食品を配布し、実際に活動をしながら勧誘しています。また、学内にポスターを掲示し、通年サークルメンバーを募集しています。

その他の活動について

Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。

上記以外の活動として、別の学生ボランティア団体との意見交換会にも積極的に参加しました。今年度は、東北労働金庫主催の「未来へのタスキ活動報告会」や、こども家庭庁主催の「ユースのアクションサミット」などに参加させていただき、貴重な時間を過ごすことができました。

今後について

Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。

たくさんの人にフードドライブをしてもらい、食べられるのに食べられていない食品を集め、それを必要としている人に配布する循環を継続していきたいです。そのために、子ども食堂や食育出前授業により啓発活動にも力を入れていきたいと考えています。

最終的には庄内地方の食品ロスを減らし、庄内から全国に食品ロス削減活動が広まるきっかけになればいいなと考えています。

ユースのアクションサミット

2024
輝く県民活躍大賞
若 者 部 門

やまがた未来科学プロジェクト

山形大学 SCITA センター
学生スタッフ

SCITA センター学生スタッフ参加イベント集合写真

・・・ 団 体 概 要 ・・・

代表者
学生スタッフ代表
大淵 友加里

所在地
山形市

主な活動分野
科学教育の普及

設立年月
平成21年4月1日

会員数
40人

受賞した活動について

Q. どのような活動ですか。

私たち SCITA センター学生スタッフは、山形県内外で開催されるイベントにおいて、幼児から小学生を主な対象とした科学実験を提供する活動を行っています。

実験の考案やイベントブース運営の企画を学生自らが行い、時には学生が主体となってイベントを開催します。

各地で理科実験を提供することにより、科学の面白さを子ども達に伝えることを目指しています。

Q. いつから始めた活動ですか。活動を始めたきっかけや理由は何ですか。

活動は 15 年ほど前から行っています。2008 年に山形大学が独自に開始した理科学習の普及活動を促進するプログラム「やまがた未来科学プロジェクト」に基づき、科学的思考を備え未来の山形・日本を支える人材を育成するために SCITA センターが設置されました。その中で、大学生が子ども達に科学の魅力を伝えようと、SCITA センターのスタッフとなり科学実験イベントを企画・開催したことが本団体の始まりです。

Q. 活動をする中で、大切にしていることは何ですか。

特に大切にしていることは、子ども達に「科学ってすごい！面白い！」と感じてもらうことです。科学に興味を持ってもらう第 1 歩として、科学というものに感心し、不思議に思ってもらえるように努力しています。

実験ブース看板

Q. 活動の中からどのような気付きや発見がありましたか。

私たちが気にしないところに目をつけて「じゃあこれはどうなるの？」と子ども達から質問されたり、親御さんの方から「これはどうなんですか」と聞かれたりして、実験の改善ポイントや教え方に気づかされることがあります。

科学の魅力を伝える活動ですが、同時に私たちが科学の奥深さや不思議さに気づかされる活動でもあり、やりがいがあります。

Q. 活動をする中で困ったことはありますか。そのときどのように対応しましたか。

実験を行った後に、「この実験では何が起きたのか」を説明する「原理説明」を行うのですが、実験によっては説明が難しく、うまく子ども達に伝えられないことがあります。特に年齢が低い子供たちには「いかにわかりやすく説明するか」が大変です。口頭で説明するだけでなく、ジェスチャーを交える、絵を見せながら説明する、というように、その都度工夫しながら原理説明を行っています。

イベントブースの運営

Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。

大学の新入生歓迎フェスティバルなどの学祭に参加し、活動の紹介を行っています。

また、イベント時には他団体と積極的に交流し、活動の輪を広げられるようにしています。「科学のイベントをここで開催したい」という話を聞き、本団体の紹介を行うこともあります。

その他の活動について

Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。

「科学実験の提供」と聞くと理系の学生が行っている、と想像されがちですが、人文社会科学部や地域教育文化学部といった理系以外の学生も所属しています。分野横断的に活動していることが強みです。

今後について

Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。

現在の実験は物理・化学分野に集中しており、生物や地球科学・データサイエンス分野の実験が少ないことが課題となっています。

今後は大学内の他の科学系サークルや大学内外の諸機関との連携を深め、これらの分野の実験も行っていきたいと思います。

2024
輝く県民活躍大賞
一般社会貢献部門

「森林業」による地元の魅力発信と関係人口・交流人口の創出

飯豊町中津川の森人会（もりびとかい）

・・・ 団 体 概 要 ・・・

代表者
代表　加藤　雅史

所在地
飯豊町

主な活動分野
森林整備・森林業（新林業）
農山漁村・中山間地域の振興

設立年月
令和3年4月1日

会員数
12人

受賞した活動について

Q. どのような活動ですか。

主に長期間管理されていない山林の刈払いや間伐などの森林整備を行っています。メンバーの多くは林業が本業ではありませんが、森と関わりたいという意識を持った若者や移住者が中心です。

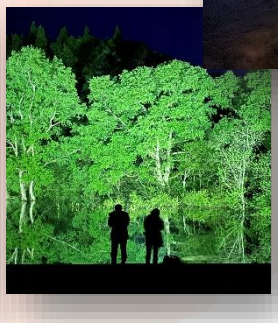
森林整備のほかに、毎年２月後半に開催される中津川地区内の雪まつりで雪に覆われたブナ林のライトアップ、そして４月から５月中旬に、白川湖に姿を現す白柳の「水没林」のライトアップなどを行っています。

また、町内外から参加者を受け入れています。県外の大学生が参加する森林研修の受け入れや消防隊職員有志の方々との自然災害に向けたチェーンソー講習会などを行っています。また芸術家を招いて長期滞在型制作イベントも行い、森や山村での暮らしをテーマに作品を地元住民の方々と共に作り上げるワークショップも開催しています。

Q. いつから始めた活動ですか。活動を始めたきっかけや理由は何ですか。

2021年４月から活動を開始しました。きっかけは、代表の加藤が飯豊町に移住し林業に従事する中で、林業の後継者がいない事、そして荒廃する里山、そして現行の林業での限界を感じたからです。

森林整備作業



水没林、ブナ林のライトアップ

Q. 活動をする中で、大切にしていることは何ですか。

「木が生えているからこその森の価値を最大限生かす」。「木を伐るのであれば、その価値を最大限見出す」。

効率よく木を伐り、丸太を売るというのが今の林業ですが、経済性を重視するが故に見失ってしまった森と人との関係性を取り戻す活動を行っています。

森の価値を最大限に活かす、それは空間利用や教育、技術継承、芸術、観光といった多岐にわたる事です。これらは、本業の林業からは生まれない発想です。それが生まれるのは、本業ではない人々が森と関わり、自由な発想を行い、自主的に関わっているからです。そこから生まれる化学反応により、今まで見過ごされてきた森の価値を見出してきました。

金銭的な価値ではなく、多くの人々が森の中に集い、新たなアイディアを実現する為に、共に進む。

こうした姿が、森が私たちに与えてくれる一番の恵みという事を大切にしています。

Q. 活動の中からどのような気付きや発見がありましたか。

様々な経歴を持つ人々と共に活動するからこそ、新しいアイディアの発見、気づきが生まれています。

芸術家の滞在型制作イベント

その大きな形が芸術と森の活動である、ライトアップと芸術家の滞在型制作イベントです。

Q. 活動をする中で困ったことはありますか。そのときどのように対応しましたか。

森林整備の事業に対するメンバーの温度差でした。当初は、困惑しましたが、まずメンバーが何をしたいのか、何が得意なのかという聞き取りを行いました。森林整備だけが森の活用ではないと気が付き、ライトアップ、芸術活動など多岐にわたる活動の幅が広がる結果に繋がりました。

Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。

当初は飯豊町中津川地区内で仲間のみにしていましたが、これでは発展が見込めないと感じ、町内外の若者を中心に声をかける事などを行ってきました。

並行して Facebook や Instagram などを使い、活動の情報を発信しています。

その他の活動について

Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。

森人会は、「やる気のある人をサポート」します。女性会員が、重機に乗り山で作業道作りなどをしています。やりたい、やってみたいという人を応援し、支援、教育を行うのが森人会です。

こうして、森の次のファン、森の担い手を増やしています。

今後について

Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。

地域の森は地域で守り、森を活用し過疎の山村集落である中津川地区を、日本で一番賑やかで活気のある集落にしていきたいです。

その為に、森林整備と観光、芸術などを組み合わせた新たな林業（森林業）を生業までに成長させていきます。そして町内外の多くの人が集う、森を育てていきます。

2024
輝く県民活躍大賞
一般社会貢献部門

Sailing for everyone
ヨットで町おこし

一般社団法人 徳良湖ヨット倶楽部

学校行事での体験活動

・・・ 団 体 概 要 ・・・

代表者
代表理事　長谷山　裕

所在地
尾花沢市

主な活動分野
青少年の健全育成、スポーツ・パラスポーツ・高齢者の社会参画・地元観光の振興

設立年月
平成24年9月1日

会員数
56人

受賞した活動について

Q. どのような活動ですか。

観光場所として見捨てられていた徳良湖湖面を活用し、水辺のアクティビティ、特に自然に優しい風だけで走るヨットを通じて観光振興、地域振興と青少年の育成、障がい者や高齢者の社会参画促進といった社会教育を目的として活動しています。

設立当初はヨット愛好家の団体からヨット倶楽部を立ち上げ、後に B&G 財団※の海洋クラブに認定されました。

公益に資する活動を交えながら対象層を広げ、誰もが楽しめるインクルーシブセーリングを提供しています。

※　水辺の自然体験を通し、青少年の健全育成や地域活性化等を推進する公益財団法人

Q. いつから始めた活動ですか。活動を始めたきっかけや理由は何ですか。

2012年、最初は現副代表理事が生まれた集落の徳良湖において、年老いた店主に乞われて営業不能に陥った貸しボート屋を引き受けたところからです。

ここへ現代表理事が趣味でやっていた、風だけで動くヨットを浮かべて町おこしをしようと、すべてを自前で、まずは建屋を人々が気軽に集えるクラブハウスに改修しました。その後、朽ち果てていた危険な桟橋を補修、その桟橋も徐々に延長しました。

昨年は、車椅子の方々でも安全、安心に乗り降りできるような桟橋も設営しました。

Q. 活動をする中で、大切にしていることは何ですか。

水上体験の前に、B&G のプログラムを活用し、水辺の安全教育とライフジャケットの活用法教授を徹底し、安全を確保しています。

また、令和２年度より、北海道・東北では初めての誰でもが安全にかつ簡単に乗れる「ハンザ級ヨット」を導入しました。初めてでも 15 分程度の教習で障害の有無や年齢、経験を問わず、誰もがインクルーシブで湖面を自由に帆走できることができます。

ハンザ級ヨット

車いすからの
ヨット移乗

湖面のごみ拾い

地域の高校の授業、
幼稚園行事での
ヨット体験活動

Q. 活動の中からどのような気付きや発見がありましたか。

最初は、ヨットは危険を伴う水上アクティビティなので、乗艇者をある一定の年齢以上の健常者に限って活動していました。しかし、ハンザ級ヨットを知りそれを導入するに至り、年齢や経験の有無、障がい者でも安全に乗艇し、風をつかんでセーリングを楽しめるようになりました。今まさに旬となった「インクルーシブセーリング」を北海道・東北では唯一の倶楽部として展開しています。

Q. 活動をする中で困ったことはありますか。そのときどのように対応しましたか。

これまでは、倶楽部会員の年会費収入のみで活動をしておりましたが、設備や舟艇を揃え、救助体制を確立していくと、当然のことながらかなりの費用が必要となり、自前だけでは賄いきれない状態が予測されました。

そこで、寄附や助成金の受け皿になれるよう、令和4年7月に一般社団法人となり、行政や基金、公益団体や企業などからも活動に資する資金を頂戴できることになりました。

Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。

まだまだ、徳良湖でヨット体験ができることを県内の方でも知りません。

今後は資金の掛からないWebを活用した広報活動を展開し、まずは一度試乗しに来ていただき、ヨットやセーリングの面白さ、そしてセーリングの文化をお伝えし、特に障がいをお持ちの方や高齢の方にもインクルーシブセーリングの輪を広げていきたいと思います。

その他の活動について

Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。

子ども達の水難事故ゼロを目指し、積極的に地域の小学校の学年行事を受け入れ、水辺の安全教育を実施しています。

また、所有する救助艇を活用し、活動させていただいている湖面の清掃や外来種の不法放流の湖上監視、さらには湖畔で遊ばれている方々の水上安全救難パトロール活動をしています。

今後について

Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。

これまでは、身体的障がいをお持ちの方、特に車いすの方々向けにインクルーシブ活動をしてきましたが、今後は、聴覚障がいや視覚障がい、知的障がい、精神的障がいをお持ちの方への対応を推進します。

2024
輝く県民活躍大賞
一般社会貢献部門

寺フェス in 山形県朝日町 若宮寺、のぼり花火大会

登坂 尚高 氏

寺フェスでの演奏

のぼり花火大会

受賞した活動について

Q. どのような活動ですか。

私の実家であり、朝日町にある「若宮寺」で音楽フェスを行う『寺フェス』と、有志から募った寄附協賛金を元に町内で花火を打ち上げる『のぼり花火大会』を行っています。

寺フェスは著名アーティストにも出演いただく音楽フェスで、私自身もミュージシャンとして出演しております。

また、のぼり花火大会は町内の公園を会場に、一発一発、寄附協賛金をいただいた方からのメッセージを読み上げながら、想いを込めて打ち上げるイベントです。

Q. いつから始めた活動ですか。活動を始めたきっかけや理由は何ですか。

寺フェスは平成 25 年に初めて開催し、今年度で9回目となりました。元々私が音楽活動をしていたこともあり、夏フェスといった音楽祭を自分の力でできないものか、音楽で面白いことをできないかと思ったことがきっかけです。

開催するにあたり場所やお金の問題が浮かびましたが、「んだ、俺ん家でやってみっべ！」「お金は自分で働けば何とかなっべ！」と半ば勢いに任せて、実家である若宮寺本堂を会場に開催しました。

令和2年からはコロナ禍となり寺フェスの中止が余儀なくされましたが、代わりに何かできないかと考え「のぼり花火大会」を開催することとなりました。

Q. 活動をする中で、大切にしていることは何ですか。

寺フェスでは私の大好きなアーティストをお呼びしております。リスペクトと熱意、そこに仲間たちの支えがあるからこそ良きイベントになると思っております。お越しいただいた皆さんが少しでも笑顔になっていただければ、これ以上嬉しいことはないと思っております。

Q. 活動の中からどのような気付きや発見がありましたか。

仲間は大事だということです。このようなイベントは決して私一人ではできず、賛同し協力してくれる仲間の支えがあって初めて実現することができます。しかし身内ノリは絶対にしないことを肝に銘じています。

また、判断に迷ったときは、損得よりも面白さを選択した方が良き1日になるということを実感しました。

寺フェス実施風景

Q. 活動をする中で困ったことはありますか。そのときどのように対応しましたか。

最初はイベント運営に関するノウハウが無く分からないことばかりで、手探りの状態からのスタートでした。

どうすれば良いのかと思い悩むこともありましたが、一緒に活動している実行委員会の仲間や家族、関係者の皆さまに支えられ、励まされ、ここまで続けることができました。支えてくださる全ての方々に、本当に感謝しています。

その他の活動について

Q. その他に行っている活動や団体のアピールはありますか。

寺フェスの様子は SNS（X、Instagram、Facebook）でも発信しておりますので、ぜひご覧ください！

今後について

Q. 今後はどのようなことを目指して、活動を行っていく予定ですか。

のぼり花火大会はコロナ禍における一定の目的を果たしたこともあり終了しますが、寺フェスはこれからも続けていく予定です。

Q. 活動していく仲間を増やす工夫はありますか。

こちらから増やすということはありませんが、有難いことにスタッフの友人や仕事やプライベートで知り合った方、大学生のボランティアの皆さんなどからお手伝いしたいとお声掛けいただき、気が付けば活動の輪が広がっているように感じます。

寺フェス実行委員会スタッフ

遠くからはるばる来てくださるお客様、ふらりと遊びに来た近所の爺ちゃん、婆ちゃん、親子、友人同士、たった一人でも皆真剣に、時にゆったりと音楽を聴きに来てくださる光景は本当に素晴らしいものです。

音楽が好きな人、かつて音楽が好きだった人、これから何か始めようとする人、日常に戻る人、それぞれの心の中に何かしらの衝動が生まれてくださったら冥利に尽きます。

敬意と熱意を持って、これからも続けていきたいと思っております。

2024輝く県民活躍大賞　受賞活動の紹介

令和7年3月26日　発行

＜ジュニア・ユース部門、一般社会貢献部門＞

山形県防災くらし安心部　消費生活・地域安全課
県民活動・防災ボランティア支援室

＜若者部門＞

山形県しあわせ子育て応援部　多様性・女性若者活躍課

※　記載の団体概要は、受賞（令和6年11月）時点のものです。